

プリムターンファースト

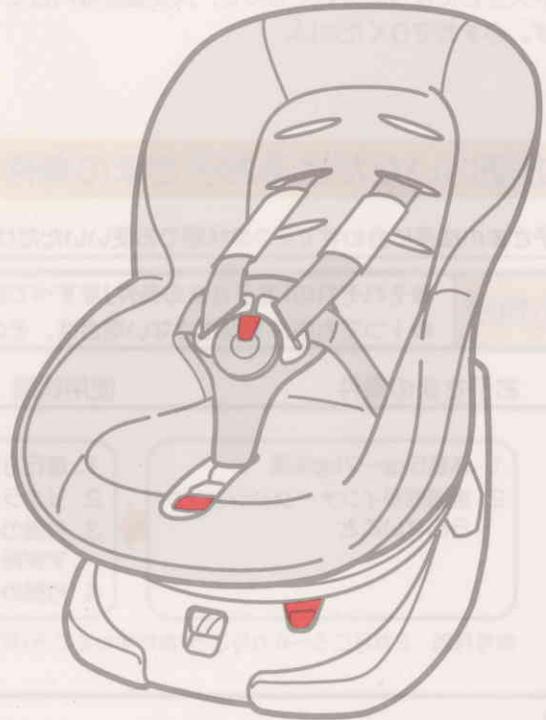
取扱説明書

品質保証書付

赤ちゃんをいちばんに、そして社会にもやさしく。—— ベビーコンシャスケア

BABY CONSCIOUS CARE

- お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。
- 本書は、チャイルドシートをお使いになる車の中など、すぐに読める場所に保管してください。
- チャイルドシートを他のお客さまにお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡してください。
- 安全運転を励行してください。



も く じ

■安全にお使いいただくために.....	1	肩部ベルト通し穴位置の決めかた.....	10
お使いいただけるお子さまの条件.....	1	幼児用ベルトの長さ調整のしかた.....	10
取り付ける位置と向き・お使いいただける座席の条件.....	2	■車への取り付けかた(準備する).....	11
緊急の場合には.....	3	ロッキングクリップの収納のしかた.....	12
■各部のなまえ.....	5	■車への取り付けかた.....	13
■操作のしかた.....	6	ロッキングクリップの取り付けかた.....	14
チャイルドシートの座席部回転のしかた.....	6	取り付けづらい車や、ぐらつく場合の対応のしかた.....	15
リクライニングのしかた.....	6	より確実に固定するためには.....	15
取り付け角度コントロールシステムの使いかた.....	7	■取り付け完了チェックのしかた.....	16
インナークッションの取り付けかた.....	8	■お手入れのしかた.....	17
ヘッドパッドの取り付けかた.....	8	シートクッションの取り付けかた.....	18
■車に取り付ける前に.....	9	■品質保証書.....	19
お子さまの座らせかた.....	9		

安全にお使いいただくために

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前に、この「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

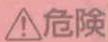
チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。

●ここに示した注意事項と、お子さま、車の座席の条件は、チャイルドシートとしての機能を発揮させて、安全に正しくお使いいただくためのものです。「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

お使いいただけるお子さまの条件

お子さまの成長に合わせて3つの状態でお使いいただけます。



- それぞれの「お子さまの条件」をすべて満たすお子さまにのみご使用ください。
- 1つでも条件を満たさない場合は、その「使用状態」ではご使用にならないでください。

お子さまの条件

使用状態

1

1. 体重5kg～7kg未満
2. 後頭部がインナークッションから出ないこと

1. 進行方向に対して後向き
2. リクライニングをもっとも倒す
3. 付属のインナークッションを必ず使用
4. 付属のヘッドパッドは使用禁止



参考月齢：2カ月ころ～4カ月ころ(首がすわるころ)まで

2

1. 体重7kg～10kg未満
2. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

1. 進行方向に対して後向き
2. リクライニングは3段階使用可能
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッドは使用可能



参考月齢：4カ月ころ(首がすわるころ)～12カ月ころまで

3

1. 体重9kg～18kg未満
2. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

1. 進行方向に対して前向き
2. リクライニングは3段階使用可能
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッドは使用可能



参考年齢：1才ころ～4才ころまで

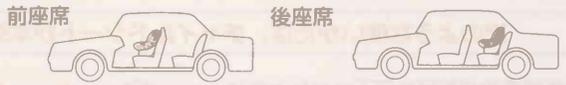
※9kg～10kgのお子さまのみ、後向き前向きどちらでもお使いいただけます。

取り付ける位置と向きの条件

車の座席にこのように取り付けてお使いいただけます。

- 後向き：体重5kg～10kg未満のお子さま
(参考月齢2ヵ月ころ～12ヵ月ころまで)

- 前向き：体重9kg～18kg未満のお子さま
(参考年齢1才ころ～4才ころまで)



⚠危険

- エアバッグのついた座席では
エアバッグが装着された座席にチャイルドシートを装着し使用することはおやめください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険な状況になります。エアバッグの装着されていない座席で使用してください。



Q&Aコーナー

Q/エアバッグシステムとは

A/事故などの衝突時に、車に内蔵のエアバッグが瞬間的に膨張し、とくに頭部などへの衝撃を緩和する装置。

Q/パッシブシートベルトとは

(オートマチックシートベルト)

A/車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられる。

お使いいただける座席の条件

次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

- シートベルトのついていない座席。



- 座席の奥行きが45cm以下の場合。



- パッシブシートベルトのついた座席。



- 進行方向に対して横向き、または後向き
の座席。

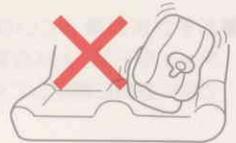


- シートベルトが座席
の中間から出ている座席。

※チャイルドシートのシートベルト通し穴位置よりも前方向からシートベルトが出ている座席。



- シートの中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



⚠危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります

- 使用条件に適合しないお子さま・座席などでは使用しないでください。



- 車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかりと固定できないときは、使用しないでください。



- 車に取り付けるときは、必ずシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のものでも固定しないでください。



- お子さまがチャイルドシートの上で立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。座らせるときには、お子さまに胸当てパッドを装着してベルトを差し込み、差し込み金具がしっかりと固定されていることを確認してください。



- チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。(お子さまの乗せ降ろしのときのみ使用してください)



安全にお使いいただくために

警告

お子さまを車内に1人で放置することはおやめください。日差しの強い日などには車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になる恐れがあります。また予期せぬ事故のもととなります。必ず保護者が同乗し使用してください。

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります

- 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。



- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。



- 幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。



- 幼児用ベルトに傷が付いたときは、必ず新しいベルトに取り替えてください。(お買い上げの販売店または弊社のお客さま相談室にお問い合わせください)



- ・幼児用ベルトは正しい長さに調節してください。(P10参照)

- ・左右の差し込み金具を確実にバックルに差し込んでください。(P9参照)

- ・肩部の幼児用ベルトをゆっくりと引き、その後ベルトが伸びきったままにならないことをご確認ください。

- お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき差し込み金具がバックルからはずれていないことを確認してください。差し込み金具がはずれていると幼児用ベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。



次のような使いかたは、同乗している方やお子さまに危険をまねく恐れがあります

- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に座席に固定してください。



- シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。



- 前座席にチャイルドシートを後向きに取り付けて助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。

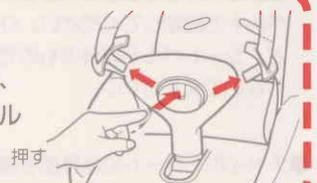


- 2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合には、緊急時の脱出のため、チャイルドシートを助手席に取り付けしないでください。



緊急の場合には

事故など緊急時は、あわてず、保護者の方が胸当てパッドのバックルボタンを押し、差し込み金具を引き抜き、幼児用ベルトをはずして、すみやかにお子さまをチャイルドシートから降ろし、車外に脱出させてください。



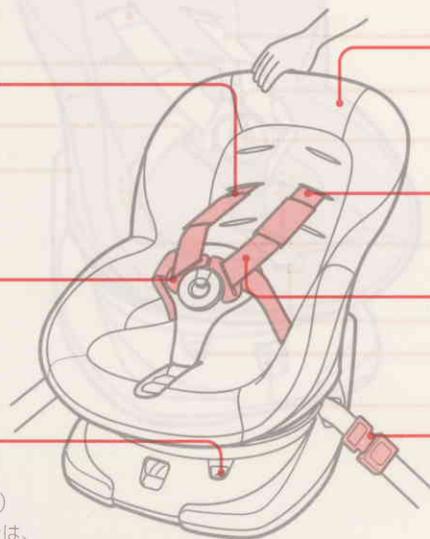
警告

チャイルドシートの本来の機能をはたすため、走行前や走行中の停車時、走行後には、下記の事項を点検してください。

幼児用ベルトが正しい肩部ベルト通し穴の位置にセットされていること

差し込み金具は「カチッ」と音がするまでバックルに差し込まれていること

座席回転装置のロックがしっかりとかかっていること
(座席部を回して確認してください)
※ボタンの下に赤色が見えていたときは、ロックがかかっていません。



チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること
(本体を前後にゆすり、確認してください)

幼児用ベルトにねじれやたるみがないこと

幼児用ベルトのロックがしっかりとかかっていること(幼児用ベルトを勢よく引いて、確認してください)

シートベルトのタングプレートが「カチッ」と音がするまでバックルにしっかりと差し込まれていること

注意

●チャイルドシートに直接日光が当たると、本体や差し込み金具、ロッククリップなどが熱くなることがあります。お子さまを座らせる前に各部にさわって、やけどをしないことを確認してから使用してください。夏場や日差しが強いときは日陰に駐車するか、本体に布などのカバーをかけてください。

●走行中は、チャイルドシートの操作や調整をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートにさわらないようにしてください。

●車の中のチャイルドシート以外の目的には使用しないでください。通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。



●チャイルドシートを改造したり、本書に記載されていない取り扱いかたでは使用しないでください。

●車の座席にクッション、座ぶとんなどを敷いたままでチャイルドシートを取り付けしないでください。

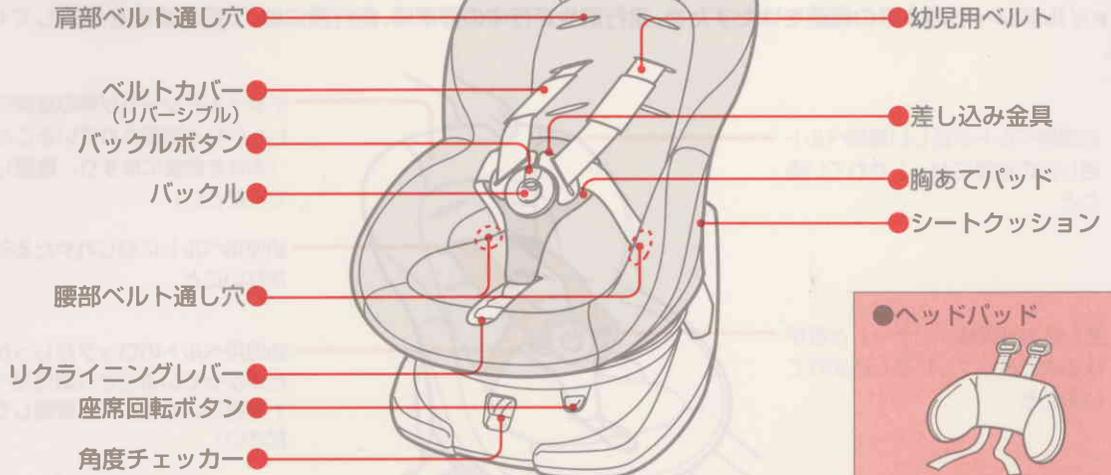
●ロッククリップは、チャイルドシートを固定する以外の目的で使用しないでください。

●チャイルドシートを風雨にさらすことはおやめください。

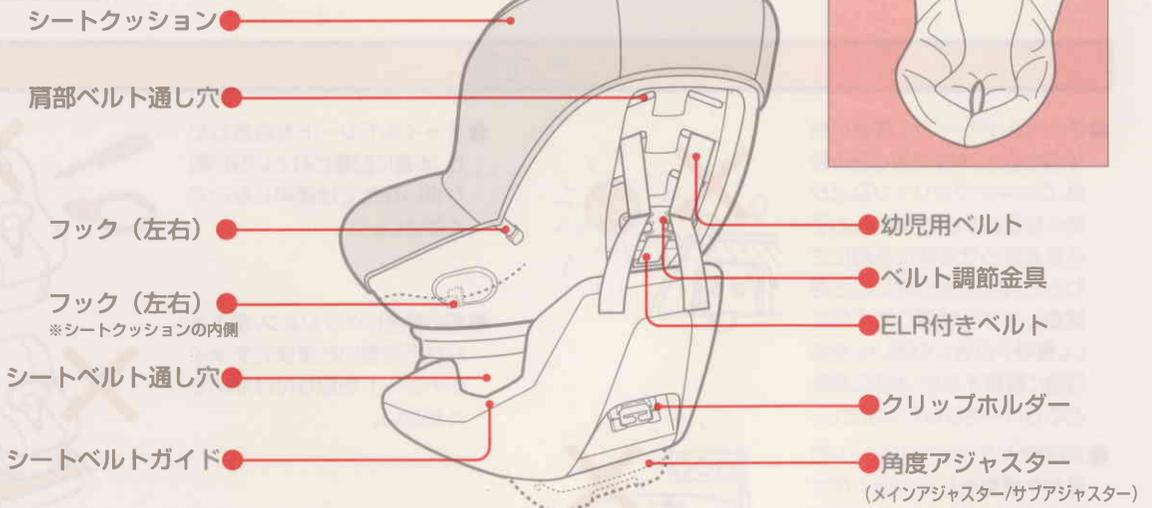


各部のなまえ

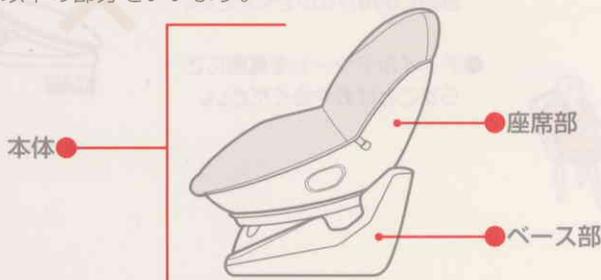
正面



背面・側面



本書で使われる「本体」「座席部」「ベース部」とは、以下の部分をいいます。



● ロッキングクリップ



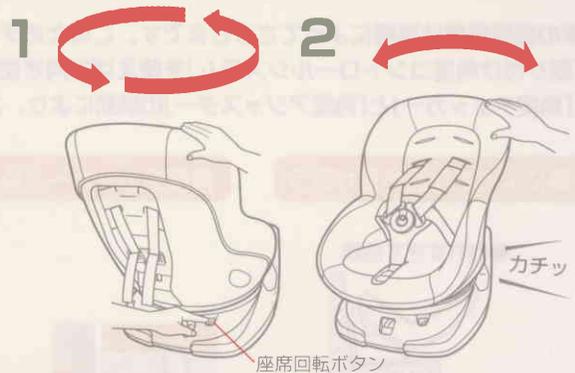
ロッキングクリップは、シートベルトのゆるみを防ぐために使います。(取り付けかたはP14をご覧ください。)

操作のしかた (回転、リクライニング)

チャイルドシートの座席部回転のしかた

- 1 座席回転ボタンを押しながら、チャイルドシートの座席部を回します。(少し動いたら座席回転ボタンから指を離してください)
- 2 「カチッ」と音がしてロックがかかります。(前向き・後向きとも)ボタンの下の赤色が見えていないことを確かめ、さらに、チャイルドシートの座席部を左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。

※横向きにした場合、ロックはかかりません。



危険

チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行することはおやめください。



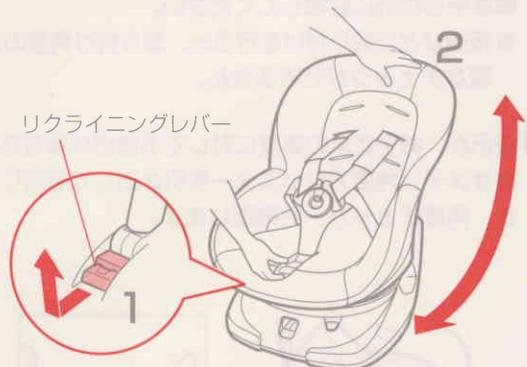
注意

座席の背部や下部のすき間に手や指を入れたまま、回転操作をしないでください。



リクライニングのしかた ●必ず、両手で操作してください。

- 1 リクライニングレバーを右図1の矢印のように、引きながら上に持ち上げ(2段階操作)、リクライニングの角度を調節します。
 - 2 レバーから指を離して座席部を前後に揺すり、しっかりロックされた状態であることを確認してください。
- リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1~2段リクライニングさせるとできます。この場合、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。
 - 車の背もたれがリクライニングできない場合は、チャイルドシートのリクライニング操作ができないことがあります。



注意

リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

操作のしかた(後向き使用時の取り付け角度調節、部品の取り付けかた)

取り付け角度コントロールシステムの使いかた(後向き使用時専用)

車の座面角度は車種によってさまざまです。このためチャイルドシートの角度が不適切になる場合があります。「取り付け角度コントロールシステム」を使えば後向き使用時に、最適な角度で取り付けることができます。「角度チェッカー」と「角度アジャスター」の調節により、お子さまの成長に合った最適な角度で取り付けができます。

車によって座面角度が違う

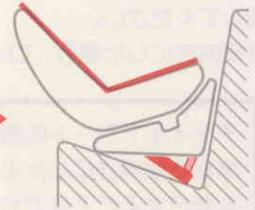
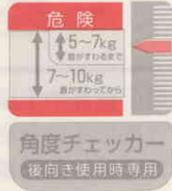
角度チェッカーと角度アジャスターで調節

適切な角度に取り付け

●倒れすぎて危険



●立ちすぎて不適切



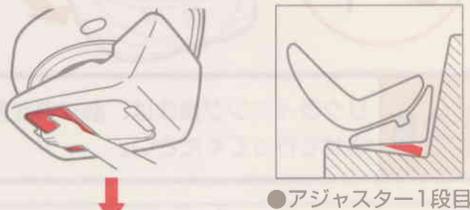
- 危険**
- 後向きで使用する場合は、取り付けの際に角度チェッカーの表示を必ず確認してください。
 - 角度チェッカーの針が赤色の「危険」をさしている場合は必ず角度アジャスターで適切な取り付け角度に調節してから使用してください。
 - 角度チェッカーの条件をすべて満たすお子さまにのみ、ご使用ください。

1 車を平らな所に駐車してください。
※ 坂道などで取り付けを行うと、取り付け角度の正確なチェックができません。

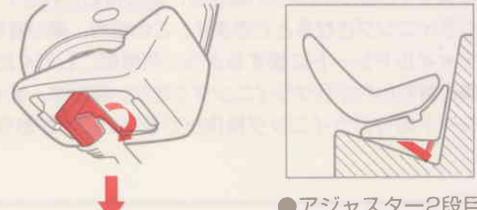
2 取り付けを行う前に、いったんチャイルドシートを車の座席に置き、角度チェッカーを確認します。

3 表示が、お子さまの体重に対して不適切な場合は、まずメイン角度アジャスターを引き出して座席に置き、角度チェッカーを確認します。

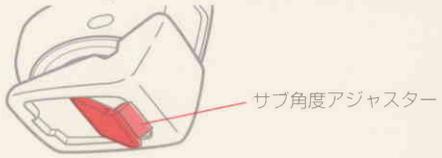
4 角度調節が不十分な場合は、さらにサブ角度アジャスターを引き出し、角度チェッカーを確認します。
※ サブアジャスターに付いているベルトは誤使用(サブアジャスターのみの使用)を防ぐためのものです。



●アジャスター1段目



●アジャスター2段目



5 アジャスターで角度調節後、取り付け作業を行います。
7 ※「車への取り付けかた」(P11~P16)をご覧ください。

6 取り付け完了後もう一度、角度チェッカーの表示を確認してください。

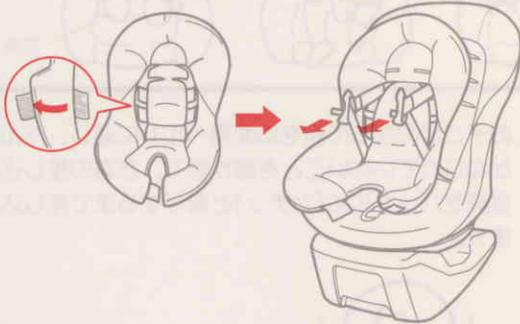
インナークッションの取り付けかた

お子さまの首がすわっていない場合には、インナークッションをお使いください。インナークッションは、後向き
のときにのみお使いください。前向きになると、本来の機能をはたさず危険です。

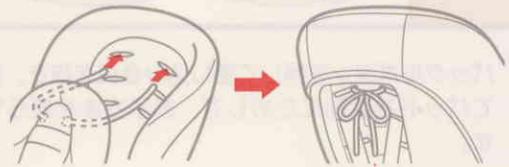
危険

- 後向きの状態でのみお使いください。前向きになると、本来の機能をはたさず危険です。
- リクライニングをもっとも寝かせた位置にしてください。
- 取り付けかたに従いインナークッションを正しく使用してください。
- ヘッドパッドとの併用はできません。必ず取りはずしてください。

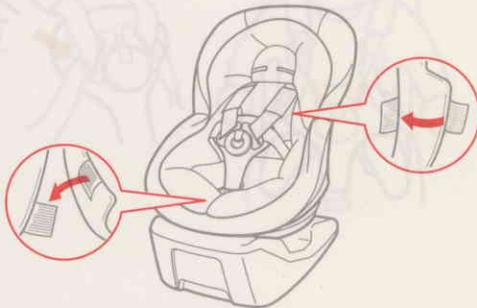
1 インナークッションの5カ所のマジックテープをはずし、幼児用ベルトと胸あてパッドを通します。



2 インナークッションのひもを一番上の肩部ベルト通し穴に通し、裏側でむすびます。



3 5カ所のマジックテープをとめてインナークッションを固定します。



4 お子さまに合わせて各部の調整をします。

※「肩部ベルト通し穴位置の決めかた」「幼児用ベルトの長さ調節のしかた」P10をご覧ください。

注意

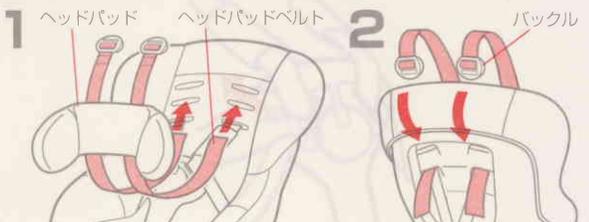
- はずしたインナークッションは車の室内に放置しないでください。
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションをつかまないでください。

ヘッドパッドの取り付けかた

1 ヘッドパッドベルトを、幼児用ベルトの通っている肩部ベルト通し穴と同じ位置に通します。

2 ヘッドパッドベルトのバックルを上から回し込みます。

3 ヘッドパッドベルトを図のように通して、ヘッドパッドの位置がずれないように締め付けます。



注意

- はずしたヘッドパッドは車の室内に放置しないでください。
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、ヘッドパッドをつかまないでください。

車に取り付ける前に

お子さまの座らせかた

車に取り付ける前に、バックルのとめかたとはずしかたを確認し、幼児用ベルトの通し穴位置、長さを適正な位置に合わせてください。

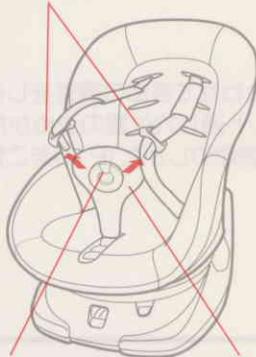
⚠ 警告

- 胸あてパッドは、ねじったり、折り曲げたり、乗ったりしないで、ていねいに扱ってください。胸あてパッドが破損し、本来の機能をはたさないことがあります。
- 図のような座らせ方はおやめください。チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります。



1 バックルボタンを押して差し込み金具を抜き、胸あてパッドを手前にたおして、お子さまを座らせます。

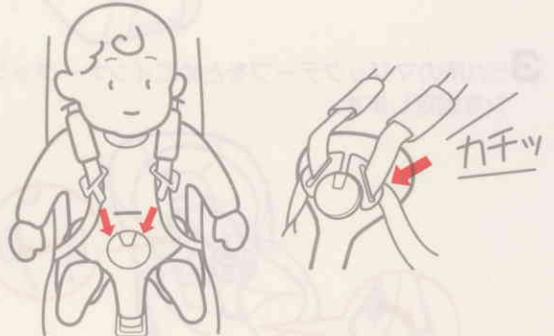
差し込み金具



バックルボタン

胸あてパッド

2 お子さまの左右の腕を幼児用ベルトに通し、ベルトがねじれていないことを確かめて、左右の差し込み金具をバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。



3 差し込み金具を軽く引き、しっかり固定されていることを確認してください。



⚠ 警告

- 差し込み金具がバックルに完全に差し込まれていないと、本来の機能をはたさず危険です。
- 差し込み金具は確実に固定してください。差し込み金具がはずれると、ベルトが首に巻きつき窒息するなどの恐れがあります。

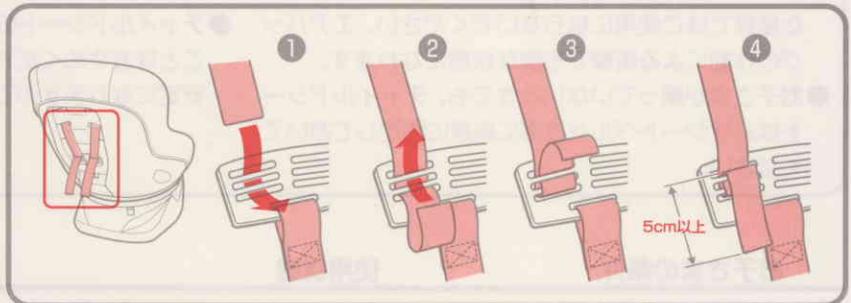
肩部ベルト通し穴位置の決めかた



- 幼児用ベルトは、着座したお子さまの肩のすぐ上の肩部ベルト通し穴に通します。
- 幼児用ベルトがお子さまの両肩にフィットしていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、チャイルドシートとして機能しません。



調整の手順



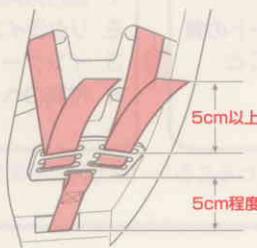
- 1 幼児用ベルトをベルト調節金具から引き抜き、お子さまにあった肩部ベルト通し穴に入れ直します。
- 2 図のような手順で、幼児用ベルトを背面のベルト調節金具に取り付けます。

幼児用ベルトの長さ調整のしかた

お子さまの体型・肩部ベルト通し穴の位置に合わせ、幼児用ベルトが体にフィットするように幼児用ベルトの長さを調整します。



- ベルト調節金具を引き上げすぎると、幼児用ベルトの巻き取り機能が働かなくなります。幼児用ベルトの長さを調節するときには、図のようにベルト調節金具を5cm程度引き出した位置でセットしてください。
- 幼児用ベルトがベルト調節金具からはずれることを防ぐために、図のように必ず幼児用ベルトを5cm以上余裕をとってセットしてください。
- 幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき死亡する恐れがあります。



幼児用ベルトの点検



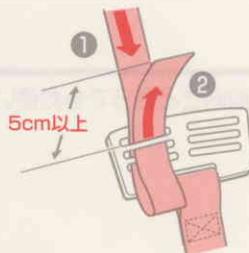
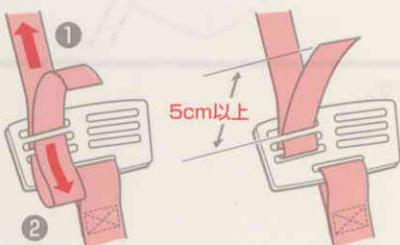
お子さまと幼児用ベルトの間に大人の手がはいるように、張り具合を調節してください。

■ 幼児用ベルトを長くするときには

矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、たるみをもたせて、②方向に引っ張ります。

■ 幼児用ベルトを短くするときには

矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、②方向に引っ張ります。



車への取り付けかた(準備する)

■ お子さまの体重に合わせて、チャイルドシートの向き、リクライニングの位置、インナークッションの有無などの使用状態を、下記にしたがって選んでください。

警告

- チャイルドシートがしっかりと固定できない場合は、本来の機能をはたさず大変危険ですので使用しないでください。
- 助手席にチャイルドシートをとり付けてドアミラーが見えにくい場合、後座席に取り付けてください。
- 前向き、後向きにかかわらずエアバッグが装着された座席ではご使用にならないでください。エアバッグの作動による衝撃で危険な状態になります。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に座席に固定しておいてください。
- シフトノブやサイドブレーキなどにチャイルドシートが接触する場合、運転の妨げになりますので助手席での使用はおやめください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗車する場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にはチャイルドシートを取り付けしないでください。
- チャイルドシートの座席部を横向きにして使用することはおやめください。座席部がロックされず、不安定になりますので、大変危険です。

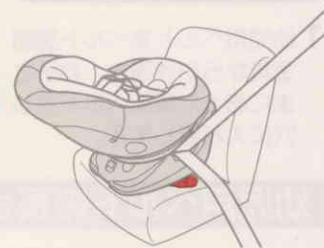
お子さまの条件

使用状態

1

1. 体重5kg～7kg未満
2. 後頭部がインナークッションから出ないこと

1. 進行方向に対して後向き
2. リクライニングをもっとも倒す
3. 付属のインナークッションを必ず使用
4. 付属のヘッドパッドは使用禁止

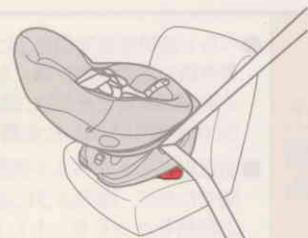


参考月齢：2カ月ころ～4カ月ころ(首がすわるころ)まで

2

1. 体重7kg～10kg未満
2. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

1. 進行方向に対して後向き
2. リクライニングは3段階使用可能
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッドは使用可能



参考月齢：4カ月ころ(首がすわるころ)～12カ月ころまで

3

1. 体重9kg～18kg未満
2. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

1. 進行方向に対して前向き
2. リクライニングは3段階使用可能
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッドは使用可能



参考年齢：1才ころ～4才ころまで

※9kg～10kgのお子さまのみ、後向き前向きどちらでもお使いいただけます。

■シートベルト種類により、ロックングクリップの使用に有無があります。シートベルトの種類を確認の上、使用してください。

シートベルトの種類	特徴	ロックングクリップの使用・不使用
●ELR付き3点式シートベルト ELR付き2点式シートベルト (ELRとは緊急ロック式ベルト巻き取り装置のことです)	通常は、ゆっくりと引くとベルトが自由に入出しし、急ブレーキや衝突などの衝撃を感知したときだけ固定機能が働き、ベルトが固定されるシートベルトです。	必ずロックングクリップを取り付けてください。 チャイルドシートがぐらつき危険です。
●A/ELR付きシートベルト (A/ELRとはALRとして使用できるELR巻き取り装置のことです)	通常はELRベルトとして機能しますが、ベルトを全部引き出すとELR機能が解除され、戻す方向にベルトが自動的に締まるシートベルトです。また、ベルトをすべて引き戻したときにはELR機能に戻ります。	1度シートベルトを全部引き出してから、チャイルドシートを固定してください。 ロックングクリップがなくても固定できます。 チャイルドシートがなめになってしまう場合はロックングクリップを使用してください。
●ALR付きシートベルト (ALRとは自動ロック式巻き取り装置のことです)	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出されなくなるシートベルトです。	チャイルドシートを固定するのに十分なシートベルトを引き出して固定してください。 ロックングクリップがなくても固定できます。
●NLR付きシートベルト (NLRとは非ロック式ベルト巻き取り装置のことです)	ロック機能のない巻き取り装置のことで、任意の位置で長さを調節して使用します。	チャイルドシートに合わせてシートベルトの長さを調整し、固定してください。
●マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルトのことです。	必要に応じて、ロックングクリップを使用してください。

ロックングクリップの収納のしかた

■ロックングクリップを使用しない場合は、必ずクリップホルダーに収納してください。

●収納のしかた

●取り出しかた



チャイルドシートを持ち運ぶときには、クリップホルダーに指をかけないでください。クリップホルダーの破損および落下などでけがをする恐れがあります。

ロックングクリップを紛失された場合は、下記の方法で有料にてお求めいただけます。(価格は'98年7月現在)

ロックングクリップ(No.30323710)

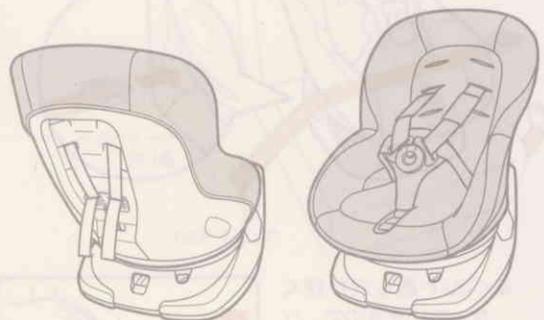
●お申し込み先
コンビ コンシューマープラザ
部品販売(相談)受付窓口
TEL: 048-797-1001
FAX: 048-798-6109
電話受付時間: 10:00~17:00
(日・祝日・年末年始除く)

●ホームページのご案内
http://www.combi.co.jp/soudan/faq_baby.htm

●車に取り付ける前に、チャイルドシートの座席の向きを決めます。チャイルドシート座席部を回転させて、前向きまたは後向きにします。(「チャイルドシートの座席部回転のしかた」P6参照)

●しっかりとロックがかかったことを確認して、チャイルドシートを座席に乗せます。

※座席部の回転は、車の座席に取り付けた後でもできますが、あらかじめ向きを決めて取り付けることをおすすめします。



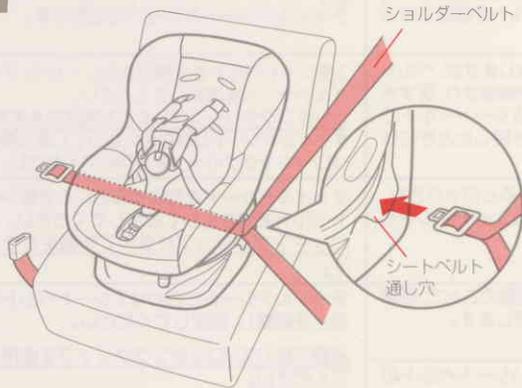
後向き

前向き

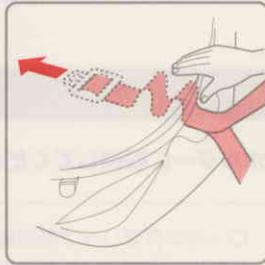
車への取り付けかた

3点式シートベルトの座席の場合

1 車のシートベルトをベルト通し穴に通します。

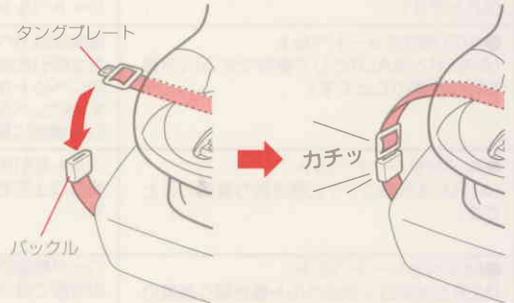


※ベルト通し穴が狭くなっていますので、ショルダーベルトをたるませた状態にしてベルトを送り込むように入れてください。



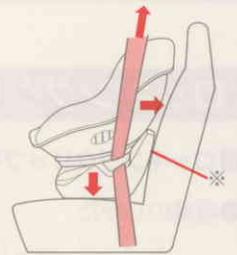
注意 手を奥まで入れ込まないでください。

2 ①車のタングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。



シートベルトにねじれないことを確認してください。

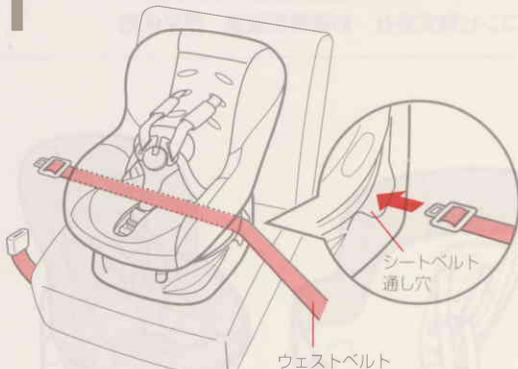
②ベースの底面および背面をしっかりと座席につけ、ショルダーベルトを引いてください。チャイルドシートに体重をかけて押しつけると、しっかり固定できます。



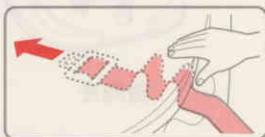
※幼児用ベルトのあまりを、ベース部と車のシートとの間にはさまないように注意してください。

2点式シートベルトの座席の場合

1 車のシートベルトをベルト通し穴に通します。

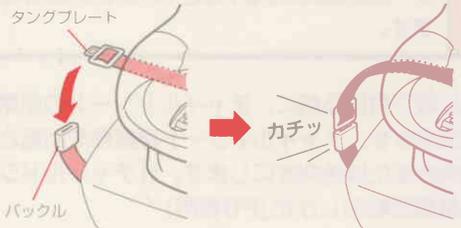


※ベルト通し穴が狭くなっていますので、ベルトを送り込むように入れてください。



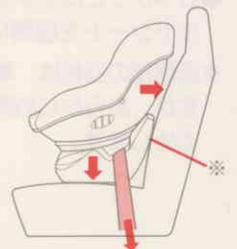
注意 手を奥まで入れ込まないでください。

2 ①車のタングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで差し込みます。



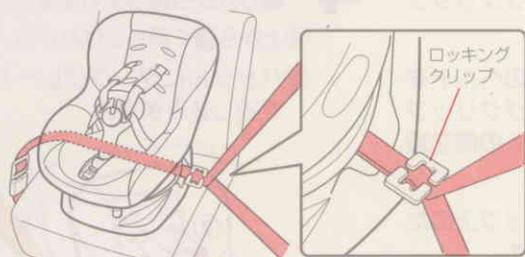
シートベルトにねじれないことを確認してください。

②ベースの底面および背面をしっかりと座席につけ、ウェストベルトを強く引き固定します。チャイルドシートに体重をかけて押しつけるとしっかり固定できます。



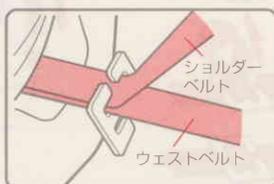
※幼児用ベルトのあまりを、ベース部と車のシートとの間にはさまないように注意してください。

- 3** ロッキングクリップを図の位置に取り付けます。
※ベルト通し穴に近い位置に取り付けます。

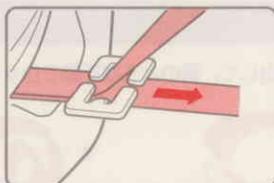


ロッキングクリップの取り付けかた

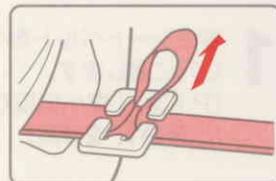
- ① 図のようにショルダーベルトとウェストベルトを2枚合わせ、ロッキングクリップの溝に入れます。



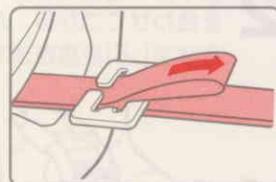
- ② ウェストベルトを反対側の溝に入れます。



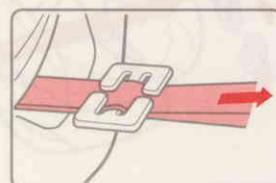
- ③ ショルダーベルトを図のように、輪を作りながら反対の溝に入れます。



- ④ 輪の上側のベルトを強く引き固定します。



- ※チャイルドシートがずれないように手で押さえながら水平に引きます。

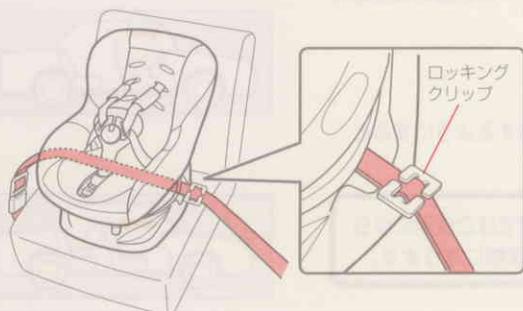


- ⑤ しっかりと固定したら、ショルダーベルトの輪のたるみをなくします。

- 4** 最後に「取り付け完了チェックのしかた」(P16)に従い、しっかり固定したか確認してください。

- 3** ●マニュアル式シートベルトの場合
シートベルトがゆるむ場合は、ロッキングクリップを取り付けてください。
(取り付けかたは、「3点式シートベルトの座席の場合」の手順**3**をご覧ください)

- ELR付き2点式シートベルトの場合
ロッキングクリップを図の位置に取り付けます。
(「ELR付き2点式シートベルトの場合には」P15をご覧ください)



- 4** 最後に「取り付け完了チェックのしかた」(P16)に従い、しっかり固定したか確認してください。

取り付けづらい車や、ぐらつく場合などの対応のしかたについては
P15をご覧ください。

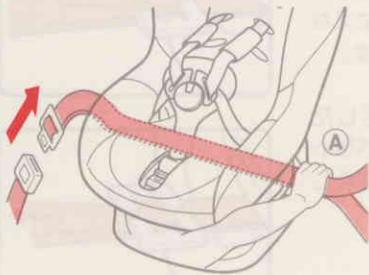
車のバックルがシートベルト通し穴の角に当たり、不安定な場合
P16をご覧ください。

車への取り付けかた(取り付けづらい車や、ぐらつく場合の対応のしかた)

3ドア車などシートベルトが調整しづらく、チャイルドシートがしっかり固定できない場合

1 車のシートベルトをベルト通し穴に通します。
(P13 「車への取り付けかた」手順**1**、**2**参照)

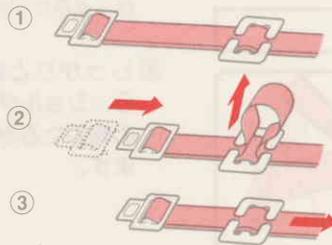
2 図中④の位置で2枚のベルトを合わせてつかみ、バックルをはずし引き抜きます。



3 ①2枚のベルトがずれないように、ロックングクリップを取り付けます。

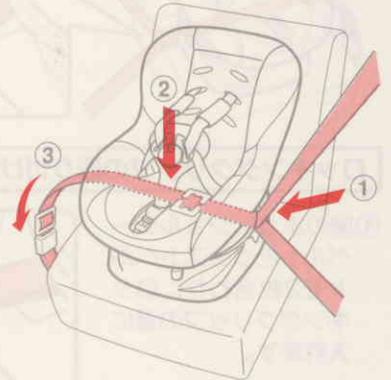
②図のように上側のベルトを引いてロックングクリップとタングプレートの間を短くします。

③ロックングクリップ上のたるみをなくします。



4 ①再び、シートベルトをベルト通し穴から送り入れます。

②上から強く押しつけながら、
③バックルにタングプレートを差し込みます。



ELR付き2点式ベルトの場合には

タングプレートをバックルに差し込み、車のシートベルトを全部引き出して、図のような手順でロックングクリップを取り付けます。



ロックングクリップにシートベルトを2枚重ねて通します。
③の→方向に上側のシートベルトを強く引き、次に上にたるむシートベルトを④の→方向に引きます。

⑤、最も引いた状態で1度バックルをはずします。⑥

シートベルトをロックングクリップにかけ、⑦の→方向に強く引き⑧のたるみをとります。最後に、本体を座席に押しつけながらタングプレートをバックルに差し込みます。⑨

より確実に固定するためには

前座席に取り付けた場合

取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせると、より確実に固定できます。

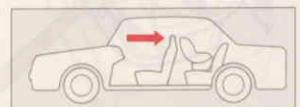
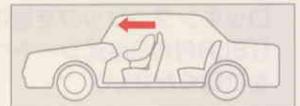
前座席で後向きを使用をする場合

ダッシュボードとチャイルドシートの背面が接するようになると、より確実に固定できます。

※車により、ダッシュボードに接しない場合があります。

後座席で後向きを使用をする場合

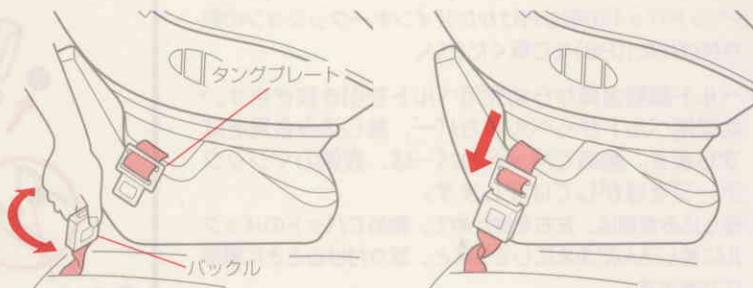
車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートの背面と接するようになると、より確実に固定できます。



前向き、後向きにかかわらずエアバッグが装着された座席ではご使用にならないでください。エアバッグの作動による衝撃で危険な状態になります。

車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートのシートベルト通し穴の角に当たり不安定な場合

短ベルト(バックルの付いている車のシートベルト)がシートベルト通し穴の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。



警告

ひねりを加えてもしっかり取り付けできない場合は、ご使用をおやめください。本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります。

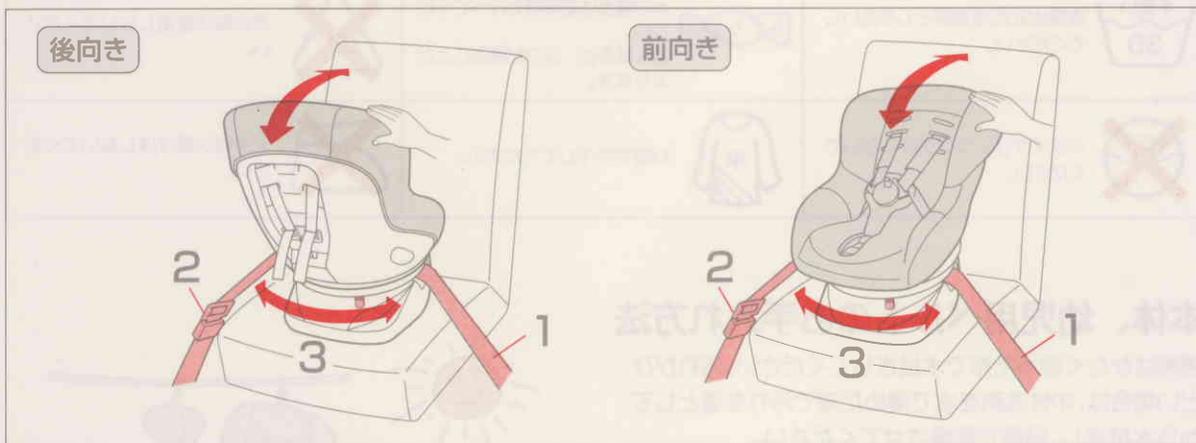
1 タングプレートをはずしてバックルを持ち、短ベルトに数回ひねりを加えて短くします。

2 もう1度タングプレートを差し込み、固定します。

取り付け完了チェックのしかた

取り付けが終わったらチャイルドシートがしっかりと固定されているか、次のことを確認してください。

●チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されているか、本体を前後にゆすって確認してください。



1 お子さまが座っても、車のシートベルトにゆるみのないこと。

※ お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。

2 車のシートベルトのタングプレートがバックルにしっかりと差し込まれていること。

3 チャイルドシートの座席部が、前向きまたは後向きの位置でしっかりとロックされていること。

●幼児用ベルトを左右いっしょにつかみ、勢きよく引きロックされること。手を離し引き出した幼児用ベルトが戻ること。この2つを確認してください。

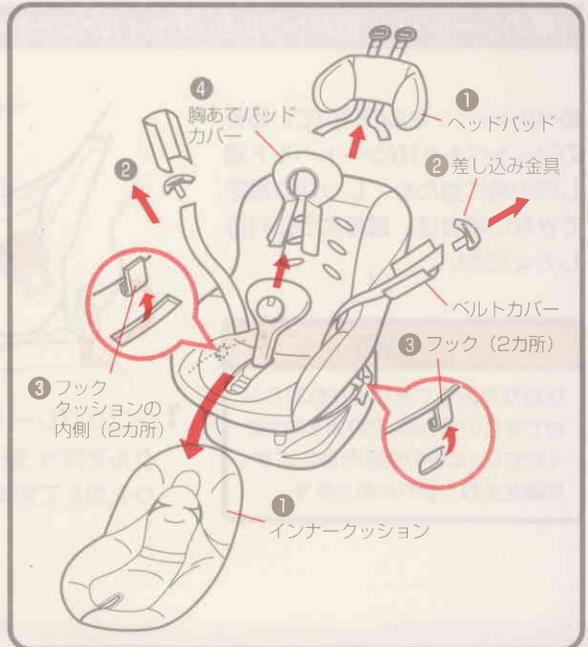
警告

これらの項目をチェックし、しっかりと固定できない場合は再調整してください。それでもしっかりと固定できない場合は、その座席では使用しないでください。本来の機能をはたさず、危険をまねく恐れがあります。

お手入れのしかた

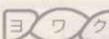
シートクッションのはずしかた

- ① ヘッドパッドやインナークッションをはずします。
「ヘッドパッドの取り付けかた」「インナークッションの取り付けかた」(P8)をご覧ください。
- ② ベルト調整金具から幼児用ベルトを引き抜きます。
幼児用ベルトからベルトカバー、差し込み金具をはずします。胸あてパッドカバーは、表側のマジックテープをはがしてはずします。
※ 差し込み金具は、左右を確かめて、胸あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくとし、取り付けるときに簡単にできます。
- ③ シートクッションについている4カ所のフックをはずします。
- ④ 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。



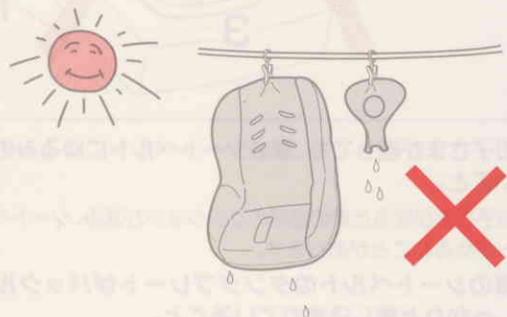
シートクッション、ベルトカバー、胸あてパッドカバー、インナークッション、ヘッドパッドの洗いかた

●洗濯時は下記の項目を守ってください。

 <p>液温は30℃を限界とし手洗いしてください。</p>	 <p>手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。</p>	 <p>漂白剤は使用しないでください。</p>
 <p>ドライクリーニングはしないでください。</p>	 <p>日陰で平干してください。</p>	 <p>アイロン掛けはしないでください。</p>

本体、幼児用ベルトのお手入れ方法

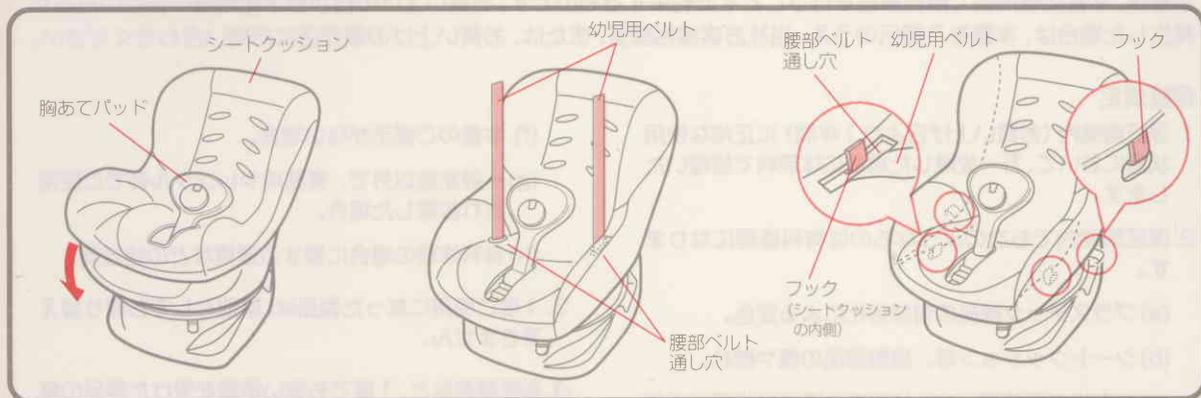
通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



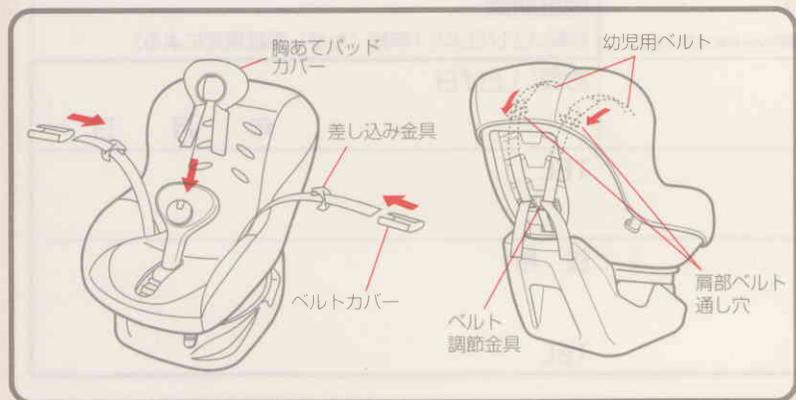
警告

- 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児用ベルトをいためることになり危険です。
- 本体を水で丸洗いするのはおやめください。金属部品がさびて強度が落ちる原因となり危険です。

シートクッションの取り付けかた



- 1 シートクッションを背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴を広げて通し、シートクッションを全体にかぶせます。
- 2 幼児用ベルトをシートクッションの腰部ベルト通し穴から表側に引き、このとき、幼児用ベルトがねじれないようにしてください。
- 3 シートクッションについているフック4カ所をとめます。(シートクッションの内側のフックは、腰部ベルト通し穴にとめます)



- 4 胸あてパッドに胸あてパッドカバーをかぶせ、幼児用ベルトに差し込み金具を通します。このとき差し込み金具の左右表裏を確認してください。つぎに、ベルトカバーを取り付けます。
- 5 幼児用ベルトを肩部ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。(ベルト調節金具への取り付けは「肩部ベルト通し穴位置の決めかた」(P10)をご覧ください。

インナークッションとヘッドパッドの取り扱いについては、8ページの「インナークッションの取り付けかた」「ヘッドパッドの取り付けかた」をご覧ください。